オリンピック屋内球技集団競技における日本の競技成績の変遷に関する比較研究
－参加得点を考慮した競技成績による評価－

三浦　健*，濱田幸二*

A comparative study of Japanese historical performance in indoor team sports of ball games in the Olympics
－evaluation by results that increased participation score－

Ken MIURA*, Koji HAMADA*

Abstract

In the present study, we numerically rated the results that increased participation score for three indoor team sports, specifically basketball, volleyball, and handball, in the Olympic Games held thus far, and investigated Japan's world ranking and changes in the performance of each continent.
In the world rankings for the Olympic Games, Japan ranked 5th in men's volleyball and 1st in women's volleyball, establishing itself as a traditional powerhouse in the sport. In addition, Japan ranked 26th in men's basketball, 14th in women's basketball, and 23rd in both men's and women's handball. However, in recent years Japan has had great difficulty qualifying for the Olympic Games in these sports, let alone winning medals.

In contrast, countries in the Continent of Europe were found to be participating and improving their performance in the Olympics in recent years. As for the 5 events except the men's basketball, power of the Continent of Europe strongly keeps constant power until the present age from the early stage of generation. On the other hand, only the men's basketball was strong in power of the Continent of America by the early stage of generation. And the Continent of Europe extended them power gradually. The Continent of Europe exceeded them power of the Continent of America in 1960's, and keep this situation.

KEY WORDS : Olympics, Basketball, Volleyball, Handball,

Ⅰ．はじめに

国際オリンピック委員会（IOC）には，2007年７月現在で，205の国・地域が加盟している（財団法人日本オリンピック委員会，2008，p.234）。北京オリンピックのバスケットボール，バレーボール，ハンドボールの屋内球技集団競技において，オリンピックに出場できるのは，予選を勝ち上がった11カ国と，開催国中国の合計12カ国のみである。日本が北京オリンピックに出場した屋内球技集団競技は男女バレーボールのみだった（男子11位タイ，女子５位タイ（５～８位））。

しかし，これらの種目の中でも，バレーボールにおいては，男女とも金メダルを含めオリンピックでのメダル獲得の常連である年代があり，男子ハンドボールにおいても，オリンピック出場の常連だった年代がある（三浦ほか，2010；表１）。近年では，オリンピックにおいてメダル獲得どころか，予選を突破してオリンピック本戦へ出場することも非常に厳しい状況である。

一方，オリンピックにおける競技成績に関する研究は，1988年ソウルオリンピックでの馬術，フェ

* 鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス系

ンシング，ボート，陸上，水泳，レスリングを大陸間で比較したもの（山岸ほか，1989）がある。この研究では，競技成績の比較を単純に競技の順位に競技得点を与えて地域の比較を行っている。しかし，前述の種目における日本の本戦に参加できない現状や，IOCの２代目会長を務めたピエール・ド・クーベルタンの言葉である「参加することに意義がある」ことを考慮すると，競技成績の評価により大会での上位国のみを得点化するだけではなく，予選を勝ち上がってオリンピック本戦へと参加した国々に対しても評価を与えることが現実的であり，理想的と考えられる。大会への参加を評価し，得点化を規則として制定している国民体育大会の成績決定方法（財団法人日本体育協会ほか，2008）は，オリンピック大会における競技成績を評価する新たな視点として極めて有益と考えられる。

また，この方法で分析することにより，予選を勝ち上がってオリンピック本戦に参加する国々や，大陸の勢力の傾向を知ることができ，オリンピック本戦に出場するための対策を検討する上で意義があると考えられる。

そこで本研究では，屋内球技集団競技男女計６種目における，現在までのオリンピックの競技成績を本戦に参加した得点も考慮し，日本と世界の国々，および大陸間の比較を試み，世界における日本のランキング，各大陸の競技成績の変遷について検討した。

表１　日本の夏季オリンピックでの競技成績（バスケットボール バレーボール ハンドボール）

	開催年	開催地	開催国	バスケットボール男子	バスケットボール女子	バレーボール男子	バレーボール女子	ハンドボール男子	ハンドボール女子
29回	2008	北京	中国	予選敗退	予選敗退	11位T	5位T	予選敗退	予選敗退
28回	2004	アテネ	ギリシャ	予選敗退	10位	予選敗退	5位T	予選敗退	予選敗退
27回	2000	シドニー	オーストラリア	予選敗退	予選敗退	予選敗退	予選敗退	予選敗退	予選敗退
26回	1996	アトランタ	アメリカ	予選敗退	7位	予選敗退	予選敗退	予選敗退	予選敗退
25回	1992	バルセロナ	スペイン	予選敗退	予選敗退	6位	5位	予選敗退	予選敗退
24回	1988	ソウル	韓国	予選敗退	予選敗退	10位	4位	11位	予選敗退
23回	1984	ロサンゼルス	アメリカ	予選敗退	予選敗退	7位	3位	10位	予選敗退
22回	1980	モスクワ	ソ連	日本不参加（バレーボール女子、ハンドボール男子は日本選手団を結成していた）					
21回	1976	モントリオール	カナダ	11位	5位	4位	1位	9位	5位
20回	1972	ミュンヘン	西ドイツ	14位		1位	2位	11位	
19回	1968	メキシコシティ	メキシコ	予選敗退		2位	2位		
18回	1964	東京	日本	10位		3位	1位		
17回	1960	ローマ	イタリア	15位					
16回	1956	メルボルン	オーストラリア	10位					
15回	1952	ヘルシンキ	フィンランド	予選敗退					
14回	1948	ロンドン	イギリス	予選不参加（戦争枢軸国　日本・ドイツ・イタリアは参加が認められなかった）					
13回	1944			ロンドン開催を第2次世界大戦により中止					
12回	1940			東京開催を日中戦争により返上、ヘルシンキ開催を第2次世界大戦により中止					
11回	1936	ベルリン	ドイツ	9位T				協会未発足	
10回	1932	ロサンゼルス	アメリカ						
9回	1928	アムステルダム	オランダ						
8回	1924	パリ	フランス						
7回	1920	アントワープ	ベルギー						
6回	1916			ベルリン開催を第1次世界大戦により中止					
5回	1912	ストックホルム	スウェーデン						
4回	1908	ロンドン	イギリス						
3回	1904	セントルイス	アメリカ						
2回	1900	パリ	フランス						
1回	1896	アテネ	ギリシャ						

※太枠はメダル獲得 枠内空白は当該種目の開催が無し（三浦ほか, 2010, p.101より転載）

Ⅱ．方法

１．競技成績の収集方法

屋内球技集団競技のオリンピックでの競技成績においては，財団法人日本体育協会（1937，1953，1958，1962，1965，1969），財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会（1973，1976，1984，1989），財団法人日本オリンピック委員会（1993，1997，2001，2004，2008）により発行された，オリンピック競技大会の報告書から収集した。なお，日本チームが参加しなかった第14回ロンドンオリンピック（Organizing committee for the XIV Olympiad・London・1948，1951）と，第22回モスクワオリンピック（Organizing committee of the 1980 Olympic Games in Moscow，1981）においては，開催国のオリンピック組織委員会発行の報告書から収集した。

２．競技の成績点の算出方法

オリンピックにおける成績点は，国民体育大会における，各正式競技の総合成績決定方法を参考に算出した（財団法人日本体育協会ほか，2008）。内訳は(1)競技得点，(2)参加得点であり，競技得点と参加得点を合計したものを１大会当たりの成績点とする。

(1) 競技得点

第１位から第８位までの国に与え，コート上のプレイヤーの人数が５人以上７人以下の種別（バスケットボール５人，バレーボール６人，ハンドボール７人）では，１位40点，２位35点，３位30点，４位25点，５位20点，６位15点，７位10点，８位５点とする。ただし，５～８位を決定させなかった競技については，４チームが５位となるが，競技得点は５位から８位までの順位の点数を加え，当該国で等分する。つまり，１チーム当たり（20＋15＋10＋５）/４=12.5点になる。

(2) 参加得点

参加得点は10点とし，オリンピックに参加した国・地域（本研究では，国とする）に与える。ただし，オリンピック予選でオリンピックの出場権を獲得しながら，オリンピックに参加しなかった場合は与えない。なお，国民体育大会ではブロック大会（国体予選）に参加した都道府県にも参加得点を与えているが，本研究では，オリンピック本戦に出場した国にのみ，参加得点を与えることとする。

３．平均順位の算出方法

１つの国が，オリンピックに出場した際の順位を平均して算出した。ただし，５～８位，９・10位，11・12位を決定させなかった競技については，IOCの競技結果のとおり，すべて５位，どちらも９位，どちらも11位とした。

４．成績点の大陸別の割合についての変遷の算出方法

成績点の大陸別の割合についての変遷は，オリンピックに出場した国々の順位を成績点に換算した得点を，アジア，アメリカ，ヨーロッパ，オセアニア，アフリカの５大陸別に集計して10年ごとに区分し，各年代別に割合を算出した。

Ⅲ．結果及び考察

１．オリンピックの競技成績における日本の位置

これまでのオリンピックに出場した実績がある国における競技成績について、種目、性別ごとにランキングで表したのが表２である。

男子バスケットボールでは，出場実績がある57カ国中，日本は26位であり，出場時の平均順位は11.5位である。１位はアメリカ合衆国で，成績点，平均順位（1.3位）とも突出している。上位を見ると，アメリカ大陸，ヨーロッパ大陸，オセアニア大陸の国々がバランス良く占めているが，アジア大陸の国は見当たらない。また，アジア大陸での日本は，中国，フィリピン，韓国に次いで４位である。

女子バスケットボールでは，出場実績がある30

表２　オリンピックに出場経験がある国・地域における競技成績のランキング（バスケットボール バレーボール ハンドボール）

※ 分離独立や統合により、現存しない国

バスケットボール　男子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	アメリカ	アメリカ	1.3	775.0
2	ソ連※	ヨーロッパ	2.1	400.0
3	ユーゴスラビア※	ヨーロッパ	3.6	370.0
4	ブラジル	アメリカ	5.5	360.0
5	イタリア	ヨーロッパ	6.8	335.0
6	オーストラリア	オセアニア	7.3	240.0
7	スペイン	ヨーロッパ	7.3	220.0
8	カナダ	アメリカ	7.1	200.0
9	リトアニア	ヨーロッパ	3.4	190.0
10	ウルグアイ	アメリカ	5.6	190.0
11	フランス	ヨーロッパ	8.0	170.0
12	プエルトリコ	アメリカ	8.0	160.0
13	アルゼンチン	アメリカ	6.4	145.0
14	メキシコ	アメリカ	7.9	145.0
15	ポーランド	ヨーロッパ	6.7	135.0
16	チコスロバキア※	ヨーロッパ	7.6	120.0
17	キューバ	アメリカ	8.2	115.0
18	中国	アジア	11.1	105.0
19	ギリシャ	ヨーロッパ	8.0	100.0
20	フィリピン	アジア	10.0	100.0
21	クロアチア	ヨーロッパ	5.0	90.0
22	チリ	アメリカ	7.0	80.0
23	ブルガリア	ヨーロッパ	9.5	70.0
24	エジプト	アフリカ	13.6	70.0
25	韓国	アジア	12.2	65.0
26	日本	アジア	11.5	60.0
27	アンゴラ	アフリカ	11.4	50.0
28	ドイツ	ヨーロッパ	10.7	40.0
29	ハンガリー	ヨーロッパ	11.8	40.0
30	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	4.0	35.0
31	ペルー	アメリカ	11.0	35.0
32	セネガル	アフリカ	13.7	30.0
33	スイス	ヨーロッパ	15.7	30.0
33	ベルギー	ヨーロッパ	15.7	30.0
35	ロシア	ヨーロッパ	8.5	25.0
36	西ドイツ※	ヨーロッパ	10.0	25.0
37	フィンランド	ヨーロッパ	10.0	20.0
38	ニュージーランド	オセアニア	10.5	20.0
39	イラン	アジア	12.5	20.0
40	トルコ	ヨーロッパ	18.0	20.0
41	エストニア	ヨーロッパ	9.0	10.0
42	スウェーデン	ヨーロッパ	10.0	10.0
42	中央アフリカ	アフリカ	10.0	10.0
44	ｾﾙﾋﾞｱ･ﾓﾝﾃﾈｸﾞﾛ※	ヨーロッパ	11.0	10.0
44	ベネズエラ	アメリカ	11.0	10.0
44	台湾	アジア	11.0	10.0
47	パナマ	アメリカ	12.0	10.0
47	インド	アジア	12.0	10.0
49	シンガポール	アジア	13.0	10.0
50	ラトビア	ヨーロッパ	15.0	10.0
50	タイ	アジア	15.0	10.0
52	モロッコ	アフリカ	16.0	10.0
53	イスラエル	ヨーロッパ	17.0	10.0
53	ルーマニア	ヨーロッパ	17.0	10.0
55	イギリス	ヨーロッパ	20.0	10.0
56	イラク	アジア	22.0	10.0
57	アイルランド	ヨーロッパ	23.0	10.0

バスケットボール　女子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	アメリカ	アメリカ	1.4	385.0
2	オーストラリア	オセアニア	3.0	240.0
3	中国	アジア	5.5	165.0
4	ブラジル	アメリカ	5.4	150.0
5	ソ連※	ヨーロッパ	1.7	140.0
6	ロシア	ヨーロッパ	4.3	135.0
7	韓国	アジア	7.2	135.0
8	ブルガリア	ヨーロッパ	3.3	115.0
9	ユーゴスラビア※	ヨーロッパ	3.7	110.0
10	キューバ	アメリカ	6.0	100.0
11	スペイン	ヨーロッパ	5.3	85.0
12	カナダ	アメリカ	7.8	80.0
13	チコスロバキア※	ヨーロッパ	6.0	75.0
14	日本	アジア	7.3	60.0
15	イタリア	ヨーロッパ	7.3	55.0
16	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	1.0	50.0
17	チェコ	ヨーロッパ	6.0	50.0
18	ウクライナ	ヨーロッパ	4.0	35.0
18	ハンガリー	ヨーロッパ	4.0	35.0
20	ニュージーランド	オセアニア	9.7	35.0
21	フランス	ヨーロッパ	5.0	30.0
22	ベラルーシ	ヨーロッパ	6.0	25.0
23	ギリシャ	ヨーロッパ	7.0	20.0
23	スロバキア	ヨーロッパ	7.0	20.0
25	ポーランド	ヨーロッパ	8.0	15.0
26	ラトビア	ヨーロッパ	9.0	10.0
27	ナイジェリア	アフリカ	11.0	10.0
28	ザイール	アフリカ	12.0	10.0
28	セネガル	アフリカ	12.0	10.0
28	マリ	アフリカ	12.0	10.0

バレーボール　男子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	ブラジル	アメリカ	4.8	375.0
2	ソ連※	ヨーロッパ	1.7	280.0
3	アメリカ	アメリカ	5.2	275.0
4	イタリア	ヨーロッパ	5.0	270.0
5	日本	アジア	5.5	235.0
6	ブルガリア	ヨーロッパ	5.0	202.5
7	オランダ	ヨーロッパ	5.0	180.0
8	ポーランド	ヨーロッパ	5.7	180.0
9	ロシア	ヨーロッパ	3.0	160.0
10	チェコスロバキア※	ヨーロッパ	4.8	155.0
11	キューバ	アメリカ	6.2	150.0
12	アルゼンチン	アメリカ	5.2	137.5
13	韓国	アジア	8.5	125.0
14	ユーゴスラビア※	ヨーロッパ	3.3	115.0
15	ルーマニア	ヨーロッパ	4.0	105.0
16	東ドイツ※	ヨーロッパ	3.0	80.0
17	カナダ	アメリカ	7.7	55.0
18	チュニジア	アフリカ	11.2	50.0
19	中国	アジア	6.5	37.5
20	フランス	ヨーロッパ	9.3	35.0
21	エジプト	アフリカ	10.7	30.0
22	ハンガリー	ヨーロッパ	6.0	25.0
23	スペイン	ヨーロッパ	8.5	25.0
24	オーストラリア	オセアニア	9.5	25.0
25	ギリシャ	ヨーロッパ	5.0	22.5
25	セルビア	ヨーロッパ	5.0	22.5
25	ｾﾙﾋﾞｱ･ﾓﾝﾃﾈｸﾞﾛ※	ヨーロッパ	5.0	22.5
28	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	7.0	20.0
28	スウェーデン	ヨーロッパ	7.0	20.0
30	ベルギー	ヨーロッパ	8.0	15.0
31	ベネズエラ	アメリカ	9.0	10.0
31	ドイツ	ヨーロッパ	9.0	10.0
33	リビア	アフリカ	10.0	10.0
33	メキシコ	アメリカ	10.0	10.0
35	西ドイツ※	ヨーロッパ	11.0	10.0
36	アルジェリア	アフリカ	12.0	10.0

バレーボール　女子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	日本	アジア	3.1	340.0
2	キューバ	アメリカ	3.3	310.0
3	ソ連※	ヨーロッパ	1.3	290.0
4	中国	アジア	3.1	275.0
5	アメリカ	アメリカ	4.8	272.5
6	ブラジル	アメリカ	4.4	265.0
7	韓国	アジア	5.6	237.5
8	ペルー	アメリカ	5.8	170.0
9	ロシア	ヨーロッパ	3.3	147.5
10	ハンガリー	ヨーロッパ	4.3	100.0
10	東ドイツ※	ヨーロッパ	4.3	100.0
12	ポーランド	ヨーロッパ	5.0	90.0
13	オランダ	ヨーロッパ	5.5	55.0
14	イタリア	ヨーロッパ	6.7	55.0
15	ルーマニア	ヨーロッパ	6.0	50.0
16	ドイツ	ヨーロッパ	7.7	50.0
17	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	2.0	45.0
18	チェコスロバキア※	ヨーロッパ	6.5	45.0
19	北朝鮮	アジア	3.0	40.0
19	ブルガリア	ヨーロッパ	3.0	40.0
21	西ドイツ※	ヨーロッパ	7.0	40.0
22	カナダ	アメリカ	8.0	30.0
23	セルビア	ヨーロッパ	5.0	22.5
24	メキシコ	アメリカ	7.0	20.0
24	クロアチア	ヨーロッパ	7.0	20.0
26	ケニア	アフリカ	11.0	20.0
27	スペイン	ヨーロッパ	8.0	15.0
28	カザフスタン	アジア	9.0	10.0
28	オーストラリア	オセアニア	9.0	10.0
28	ギリシャ	ヨーロッパ	9.0	10.0
31	アルジェリア	アフリカ	11.0	10.0
31	ドミニカ	アメリカ	11.0	10.0
31	ベネズエラ	アメリカ	11.0	10.0

ハンドボール　男子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	スペイン	ヨーロッパ	6.4	235.0
2	ユーゴスラビア※	ヨーロッパ	3.3	230.0
3	スウェーデン	ヨーロッパ	3.8	215.0
4	ルーマニア	ヨーロッパ	4.0	210.0
5	ハンガリー	ヨーロッパ	5.3	200.0
6	フランス	ヨーロッパ	3.8	180.0
7	ソ連※	ヨーロッパ	2.3	175.0
8	ドイツ	ヨーロッパ	5.7	165.0
9	ロシア	ヨーロッパ	3.8	145.0
10	クロアチア	ヨーロッパ	2.0	135.0
11	アイスランド	ヨーロッパ	6.6	125.0
12	韓国	アジア	7.3	120.0
13	西ドイツ※	ヨーロッパ	4.0	105.0
13	東ドイツ※	ヨーロッパ	4.0	105.0
15	チェコスロバキア※	ヨーロッパ	6.0	100.0
16	ポーランド	ヨーロッパ	6.3	100.0
17	スイス	ヨーロッパ	6.5	90.0
18	デンマーク	ヨーロッパ	8.2	90.0
19	エジプト	アフリカ	9.2	75.0
20	アメリカ	アメリカ	10.0	75.0
21	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	1.0	50.0
22	オーストリア	ヨーロッパ	2.0	45.0
23	日本	アジア	10.3	40.0
24	アルジェリア	アフリカ	10.5	40.0
25	ブラジル	アメリカ	11.0	40.0
26	ギリシャ	ヨーロッパ	6.0	25.0
27	スロベニア	ヨーロッパ	9.5	25.0
28	キューバ	アメリカ	11.0	20.0
29	クウェート	アジア	12.0	20.0
30	チュニジア	アフリカ	13.0	20.0
31	イスラエル	ヨーロッパ	8.0	15.0
32	ノルウェー	ヨーロッパ	9.0	10.0
33	カナダ	アメリカ	11.0	10.0
34	中国	アジア	12.0	10.0
34	オーストラリア	オセアニア	12.0	10.0

ハンドボール　女子

	国名	大陸名	平均順位	成績点
1	韓国	アジア	2.1	310.0
2	ハンガリー	ヨーロッパ	3.5	225.0
3	ノルウェー	ヨーロッパ	2.4	215.0
4	デンマーク	ヨーロッパ	1.0	150.0
5	ソ連※	ヨーロッパ	1.7	140.0
6	中国	アジア	5.6	135.0
7	ユーゴスラビア※	ヨーロッパ	2.3	130.0
8	フランス	ヨーロッパ	5.0	90.0
8	アメリカ	アメリカ	6.5	90.0
10	東ドイツ※	ヨーロッパ	2.5	85.0
10	オーストリア	ヨーロッパ	5.3	85.0
12	ルーマニア	ヨーロッパ	6.0	75.0
13	ドイツ	ヨーロッパ	7.0	70.0
14	チェコスロバキア※	ヨーロッパ	5.0	60.0
15	アンゴラ	アフリカ	9.3	50.0
16	ロシア	ヨーロッパ	2.0	45.0
17	カナダ	アメリカ	6.0	45.0
18	スペイン	ヨーロッパ	6.5	45.0
19	ブラジル	アメリカ	8.0	45.0
20	EUN（旧ソ連）※	ヨーロッパ	3.0	40.0
20	ウクライナ	ヨーロッパ	3.0	40.0
22	西ドイツ※	ヨーロッパ	4.0	35.0
23	日本	アジア	5.0	30.0
24	コンゴ共和国	アフリカ	6.0	25.0
25	コートジボアール	アフリカ	8.0	15.0
25	ナイジェリア	アフリカ	8.0	15.0
25	スウェーデン	ヨーロッパ	8.0	15.0
28	カザフスタン	アジア	10.0	10.0
28	オーストラリア	オセアニア	10.0	10.0
28	ギリシャ	ヨーロッパ	10.0	10.0

カ国中，日本は14位であり，出場時の平均順位は7.3位である。１位はアメリカ合衆国で，成績点，平均順位（1.4位）とも優れているが，初期においては，ソ連との優勝争いの結果敗れることもあった。上位を見ると，アメリカ大陸，オセアニア大陸，アジア大陸，ヨーロッパ大陸の４大陸の国々がバランスよく占めている。アジア大陸では，中国が３位，韓国が７位と世界の上位であり，日本を含めた３カ国のいずれかがオリンピック出場を果たしている状況である。

男子バレーボールでは，出場実績がある36カ国中，日本は５位であり，出場時の平均順位は5.5位である。このことから男子バレーボール界において，日本は伝統国の一つとして挙げられる。１位はブラジルであるが，成績点で上位国と大差はなく，平均順位も4.8位と特に優れているとはいえない。しかし，第１回開催の1964年東京オリンピックから連続出場を続けていて，かつ2004年アテネオリンピック金メダル，2008年北京オリンピック銀メダルと近年実力を高めている伝統国である。上位を見ると，アメリカ大陸，ヨーロッパ大陸，アジア大陸（日本）が含まれているが，ヨーロッパ大陸の国々の割合が高い。アジア大陸では，日本の他には韓国が13位，中国が19位であるが，これら３カ国以外の出場国はない。

女子バレーボールでは，出場実績がある33カ国中，日本は１位であり，出場時の平均順位は3.1位と，女子バレーボール界屈指の伝統国である。しかし，成績点においては上位の国々とはほとんど差がない状況である。上位を見ると，日本の他に中国が４位，韓国が７位とアジア大陸の国々が上位を占め，キューバ，アメリカ合衆国，ブラジル等のアメリカ大陸と，ヨーロッパ大陸が含まれる。表１において，女子バレーボール競技は，日本そしてアジア大陸の国々が世界で最も伝統のある屋内球技集団競技の種目であることが明らかになった。

男子ハンドボールでは，出場実績がある35カ国中，日本は23位であり，出場時の平均順位は10.3位である。上位をヨーロッパ大陸の国々が独占しており，成績点においての差はほとんどない状況である。アジア大陸では韓国が12位とヨーロッパ大陸の国々の一角に唯一食い込んでいる。表1から，男子ハンドボールは，ヨーロッパの国々で盛んな競技であることが明らかになった。

女子ハンドボールでは，出場実績がある30カ国中，日本は23位であり，出場時の平均順位は5.0位である。１位は韓国で，初出場の1984年ロサンゼルスオリンピックの銀メダルから上位入賞を継続していることから，成績点で他を引き離している。アジア大陸では韓国の他に中国が６位と健闘している。上位を見ると，アジア大陸の２カ国以外はヨーロッパ大陸の国々が占めている状況である。女子ハンドボール界は，アジア大陸とヨーロッパ大陸の２強であることが明らかになった。

総括すると，現在までのオリンピックで開催された種目，性別における成績の国別ランキングにおいて，日本は，女子バレーボールの１位を筆頭に，男子バレーボール（５位），女子バスケットボール（14位），男女ハンドボール（23位），男子バスケットボール（26位）の順であり，すべての種目，性別で30位以内であった。このことは，205の国・地域が加盟する現状においては，すべての種目，性別で日本は，オリンピック種目に採用された初期から活躍していた伝統国の一つであると考えられる。

しかし，北京オリンピックでこれらの種目，性別において大陸別予選等を突破して出場した国が11カ国（開催国の中国を含めて合計12カ国）であったことを考慮すると，予選突破は並大抵ではないことも理解できる（表１）。

２．オリンピックにおける大陸別の成績点の割合の変遷

図１は，オリンピックに出場した国々の順位を成績点に換算した得点を，大陸別に集計して10年ごとに区分し，各年代別に割合を算出したものである。これにより，年代ごとの大陸間における当

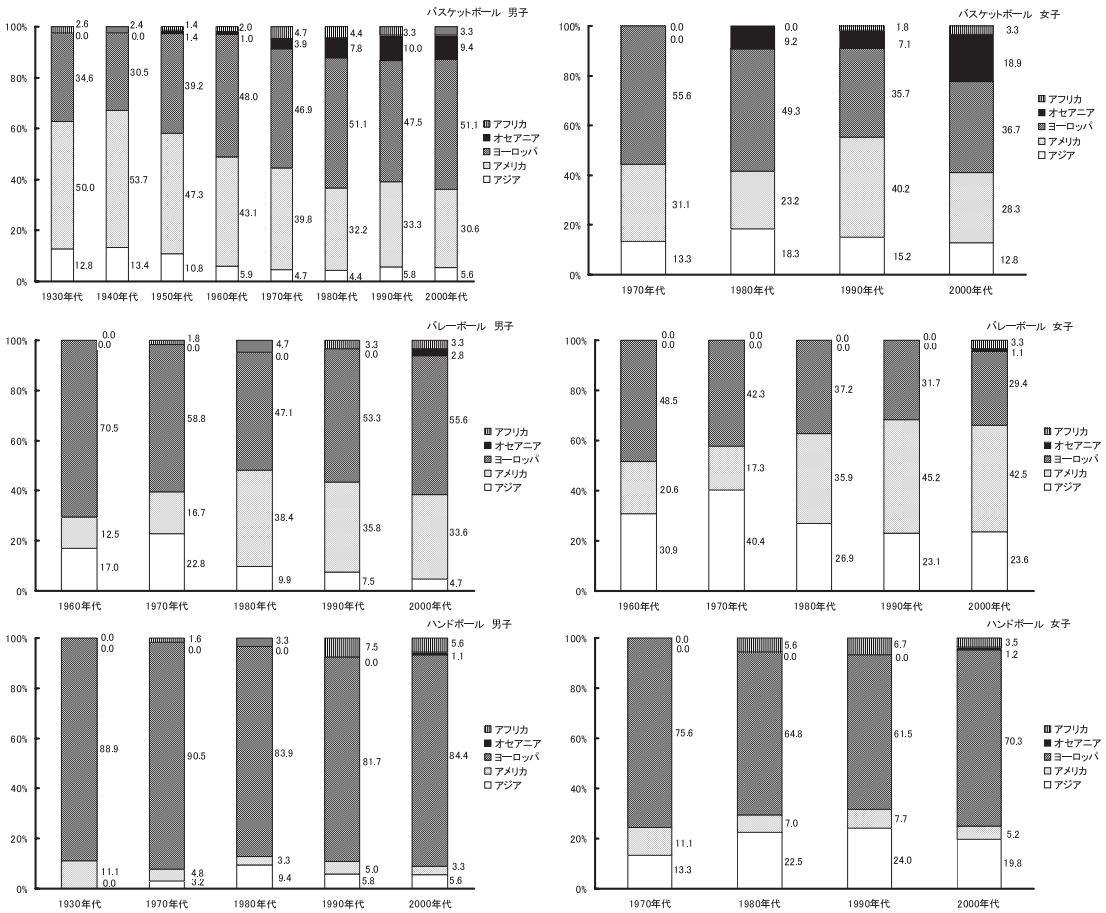

図１　オリンピックにおける成績点の大陸別割合の変遷（バスケットボール バレーボール ハンドボール）

該種目の競技力の比較が可能になる。

男子バスケットボールは，1930～1950年代ではアメリカ大陸の割合が最も高く，２位がヨーロッパ大陸で，３位のアジア大陸も10％を超えていた。ところが，1960年代以降ヨーロッパ大陸がアメリカ大陸を上回り，2000年代ではヨーロッパ大陸の勢力がアメリカ大陸を大きく上回っている。アジア大陸は1960年代以降低迷傾向が続いている。これに対しオセアニア大陸が1980年代以降勢力を拡大し，１位ヨーロッパ大陸，２位アメリカ大陸，３位オセアニア大陸の順位が2000年代まで続いている。

女子バスケットボールは，1970～1980年代はヨーロッパ大陸の勢力が強く，次いでアメリカ大陸，３位アジア大陸という序列だった。1980年代においては，1984年ロサンゼルスオリンピックで韓国が２位，中国が３位になり，アジア大陸がアメリカ大陸に接近したこともあった。1990年代ではアメリカ大陸がヨーロッパ大陸を上回るものの，2000年代では再びヨーロッパ大陸がアメリカ大陸を上回った。2000年代はオセアニア大陸が勢力を拡大し，アジア大陸を上回って３位になり，ヨーロッパ大陸，アメリカ大陸，オセアニア大陸の3大勢力となっている。

男子バレーボールは，1960～1970年代はヨーロッパ大陸の勢力が断然強く，次いで日本の活躍によりアジア大陸，３位にアメリカ大陸という序列であった。しかし，1980年代以降はアジア大陸の勢力が衰退して，アメリカ大陸の勢力が拡大し，2000年代までヨーロッパ大陸，アメリカ大陸の２大勢力となっている。

女子バレーボールは，1960～1970年代では１位ヨーロッパ大陸，２位アジア大陸，３位アメリカ大陸という序列だった。特に1970年代は1972年ミュンヘンオリンピックの日本の銀メダル，北朝鮮の銅メダル，1976年モントリオールオリンピックの

日本の金メダル，韓国の銅メダルとアジア大陸の国々が好成績を挙げ，ヨーロッパ大陸に肉薄していた。1980年代以降は，アメリカ大陸が台頭し，1980年代ではヨーロッパ大陸に肉薄して２位に，1990年代以降は，ヨーロッパ大陸を抜いてアメリカ大陸が１位になった。2000年代になってようやくアフリカ大陸，オセアニア大陸の国々が出場したのが特徴的であるが，１位アメリカ大陸，２位ヨーロッパ大陸，３位アジア大陸の３大勢力は変わらない。

男子ハンドボールは，各年代を通じてヨーロッパ大陸の独壇場と言ってよい。大陸に割り当てられた出場枠，開催国枠以外の全部を，ヨーロッパ大陸の国々が独占している状況である。特筆すべきは，1990～2000年代で，アフリカ大陸が２位と健闘していることである。

女子ハンドボールは，ヨーロッパ大陸が圧倒的な勢力であるものの，９回開催の内，金メダル２回（1988年ソウル，1992年バルセロナ）を含む計６回メダルを獲得した韓国の活躍により，アジア大陸の割合も高い。2000年代まで１位ヨーロッパ大陸，２位アジア大陸の２大勢力が続いている。

総括すると，男子バレーボール，男女ハンドボールにおいては初期から近年までヨーロッパ大陸が強い勢力を示している。

一方，女子バレーボールにおいてはアジア大陸とヨーロッパ大陸の２強であった勢力が，アメリカ大陸の台頭により，現状では勢力が分散化してきている。女子バスケットボールにおいても初期のヨーロッパ大陸が強い勢力だった年代から，アメリカ大陸，オセアニア大陸が加わり勢力がより以上に分散化している。

しかし，これらの種目，性別は初期の年代からヨーロッパ大陸の勢力が強く，現代まで一定の勢力を保っている。このことから，これらの種別では全日本レベルの選手がヨーロッパのプロリーグへ移籍して技術や精神力を磨き，レベルアップを目指す選手が存在している（三浦ほか，2010）と考えられる。

これに対し，男子バスケットボールに関しては，初期はアメリカ大陸の勢力が強く，徐々にヨーロッパ大陸が勢力を拡大し，1960年代を境にヨーロッパ大陸がアメリカ大陸の勢力を上回り現在に至っている。初期のオリンピックでのアメリカチームの活躍や，世界の男子バスケットボールの最高峰はアメリカプロバスケットボールリーグのNBA（National Basketball Association）であることから，日本の男子バスケットボール界はアメリカ大陸，特にアメリカ合衆国に目を向けてしまいがちである。しかし，これらの知見は，近年ヨーロッパ大陸の男子バスケットボールの勢力が強く，今後アジア大陸よりも格上のヨーロッパ大陸の国々でバスケットボール活動を目指していくことの有効性を示すものであると考えられる。

Ⅳ．結論

本研究では，バスケットボール，バレーボール，ハンドボールの３競技（屋内球技集団競技）における，現在までのオリンピックの競技成績を参加得点も考慮して得点化し，世界における日本のランキング，各大陸の競技成績の変遷について比較検討した。

オリンピック世界ランキングにおいて，日本は，バレーボールで男子５位，女子は１位と伝統国の地位を築いていた。バスケットボールは男子26位，女子14位，ハンドボールは男女とも23位だった。しかし，近年の屋内球技集団競技における日本は，メダル獲得どころか，予選を突破してオリンピック本戦へ出場することも非常に厳しい状況である。

これに対し，近年オリンピックに出場して成績を上げているのは，ヨーロッパ大陸の国々であった。また，男子バスケットボールを除く５種目は，初期の年代からヨーロッパ大陸の勢力が強く，現代まで一定の勢力を保っている。その一方，男子バスケットボールのみは，初期はアメリカ大陸の勢力が強く，徐々にヨーロッパ大陸が勢力を拡大し，1960年代を境にヨーロッパ大陸がアメリカ大

陸の勢力を上回り現在に至っていることが明らかになった。

Ⅴ．文献

・三浦　健・濱田幸二(2010) 男子バスケットボール競技がオリンピックに出場するために望むこと －トップ選手はヨーロッパ（特にドイツ）のプロリーグを目指そう－．スポーツパフォーマンス研究．2: 100-105.

・Organizing committee for the XIV Olympiad・London・1948 (1951) The official report of the organizing committee for the XIV Olympiad. The organizing committee for the XIV Olympiad・London・1948: London. pp.291-292.

・Organizing committee of the 1980 Olympic Games in Moscow. (1981) Games of the XXII Olympiad Moscow 1980 -Official report of the organizing committee of the games of the XXII Olympiad-. Fizkultura i Sport: Moscow. p.141, p.151, p.357, p.365, p.569, p.577.

・山岸明郎・古橋廣之進（1989）オリンピック競技成績の地域別比較 －特にヨーロッパ地域を中心として－．日本体育学会大会号．40：876.

・財団法人大日本体育協会（1937）第11回オリンピック大会報告書．財団法人大日本体育協会：東京．pp.140-141.

・財団法人日本オリンピック委員会（1993）第25回オリンピック競技大会報告書バルセロナ1992．財団法人日本オリンピック委員会：東京． pp.477-478, pp.485-486, pp.518-519.

・財団法人日本オリンピック委員会（1997）第26回オリンピック競技大会日本代表選手団報告書アトランタ1996．財団法人日本オリンピック委員会：東京．pp.550-551, pp.565-566, pp.618-619.

・財団法人日本オリンピック委員会（2001）第27回オリンピック競技大会日本代表選手団報告書（2000／シドニー）．財団法人日本オリンピック委員会：東京．p.496, p.498, pp.509-510, pp.561-562.

・財団法人日本オリンピック委員会（2004）第28回オリンピック競技大会日本代表選手団報告書（2004／アテネ）．財団法人日本オリンピック委員会：東京．pp.615-616, pp.628 -629, pp.684-685.

・財団法人日本オリンピック委員会（2008）第29回オリンピック競技大会日本代表選手団報告書（2008／北京）．財団法人日本オリンピック委員会：東京．pp.659-660, pp.673-674, pp.712-713.

・財団法人日本体育協会（1953）第15回オリンピック大会報告書．財団法人日本体育協会：東京．p.455.

・財団法人日本体育協会（1958）第16回オリンピアード大会報告書．財団法人日本体育協会：東京．p.485.

・財団法人日本体育協会（1962）第17回オリンピック大会報告書．財団法人日本体育協会：東京．p.539.

・財団法人日本体育協会（1965）第18回オリンピック競技大会報告書．財団法人日本体育協会：東京．pp.640-641, p.645.

・財団法人日本体育協会（1969）第19回オリンピック競技大会第10回オリンピック冬季競技大会報告書．財団法人日本体育協会：東京．p.484, p.487, p.575.

・財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会（1973）第20回オリンピック競技大会報告書1972年・ミュンヘン．財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会：東京．pp.344-345, pp.347-348, p.350.

・財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会（1976）第21回オリンピック競技大会報告書モントリオール・1976．財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会：東京． pp.414-415, pp.423-424, pp.442-443.

・財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会（1984）第23回オリンピック競技大会報告書ロサンゼルス／1984．財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会：東京．p.464, p.470, p.488.

・財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会（1989）第24回オリンピック競技大会報告書ソウル1988．財団法人日本体育協会／日本オリンピック委員会：東京．pp.525-526, pp.533-534, pp.559-560.

・財団法人日本体育協会・文部科学省・大分県（2008）第63回国民体育大会実施要項．財団法人日本体育協会：東京，p.9.